

鬼怒川上流 4 ダムにより洪水被害を軽減 ～約1億立方メートルを貯める～



湯西川ダム



五十里ダム

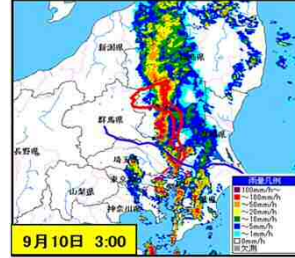
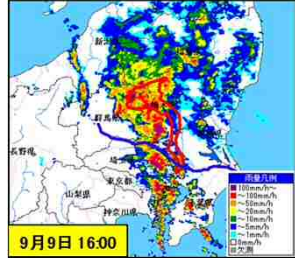


川俣ダム



川治ダム

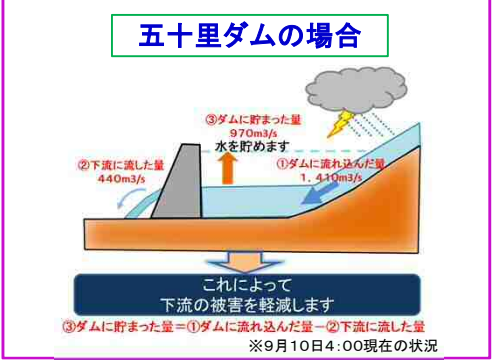
台風17, 18号に伴う線状降水帯によって、鬼怒川上流部では累計600mmを超える大雨を記録



雨域がほとんど変わっていない



鬼怒川上流の4つのダムでは、できる限り洪水を貯める操作を行い、約1億m³の水を貯め込みました。



4つのダムによって、鬼怒川下流の水位を低下させ、鬼怒川下流左岸の氾濫水量2/3、浸水深3m以上の浸水面積1/3、浸水戸数1/2に減少させています。



鬼怒川上流域では、観測史上最多の降雨を記録しましたが、鬼怒川4ダムの洪水調節により、栃木県内においても鬼怒川の水位上昇が抑えられ、被害が軽減されたと思います。これからも、洪水調節による被害の軽減や、水道用水などの水源として、ダムの役割を果たしていただきたいと思っています。

【栃木県 福田知事談】

湯西川ダム完成により川治温泉の浸水被害を回避しました

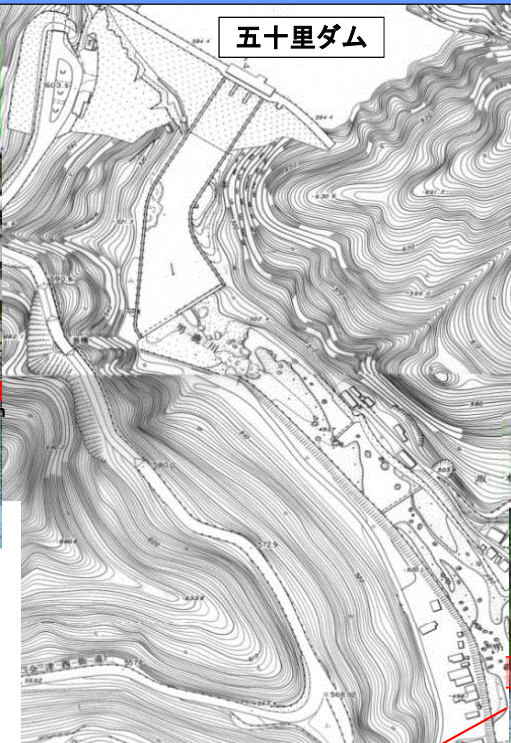


満水時の湯西川ダム(平成24年11月完成)

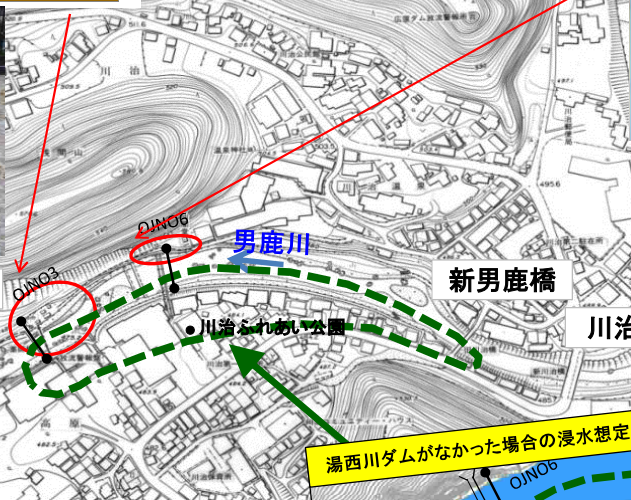
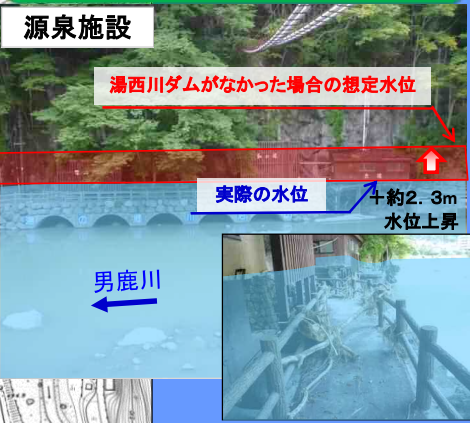


満水時の五十里ダム

湯西川ダムがなかった場合、薬師橋（岩風呂）付近で水位が約1.6m上昇していたと想定されます。



湯西川ダムがなかった場合、源泉施設が水没していたと想定されます。



凡例

浸水場合に想定される水深(ランク別)

- 0.5m未満
- 0.5m～3.0m未満
- 3.0m～5.0m未満
- 5.0m以上
- 河川区域



湯西川ダムが完成したことにより、川治温泉街への被害が回避でき、早速、ダムの効果が発揮されて良かった。今後とも、地域からダムがあつて良かったと言われるような管理を期待する。

【日光市 斎藤市長談】



湯西川ダム関連施設を活用して 地域の観光業及び主要道路の災害復興を支援 ～秋の紅葉シーズン前に供用開始～



紅葉の湯西川温泉



9月の豪雨により県道が崩落し通行不可



②旧県道とダム管理用エレベーターを活用して観光客を受け入れ(9月19日～)

③ダム管理用道路とダム管理用地を活用して県道を暫定供用(9月25日～)

①県道が崩落し通行不可となり主要道路が分断(9月10日～)



県道暫定供用ルートの開放



観光客乗降状況 (ダム天端)



観光客乗降状況 (ダム下部)



県道の通行再開までには相当の期間を要するものと懸念していましたが、国土交通省の御協力により、発災後約2週間で通行が可能となり、住民の方々がいち早く日常生活を取り戻すとともに、秋の紅葉シーズンには大勢の観光客を迎えることが出来ました。

現在は、崩落現場の早期復旧に鋭意取り組んでおりますので、今後とも御理解・御協力くださいますようお願いいたします。【栃木県 福田知事談】



湯西川温泉では県道が通行止めとなったため、観光客の受け入れが困難となりましたが、湯西川ダムの管理用エレベーターを利用することにより、観光客の送迎をなんとか行う事が出来、大変助かりました。

また、通常立ち入ることが出来ないダム堤体内に入ることが出来て感動されたお客様もいらっしゃいました。
【湯西川温泉旅館組合 伴理事長談】

平成27年9月関東・東北豪雨

鬼怒川上流ダム群で約1万m³の流木を捕捉しました



五十里ダム



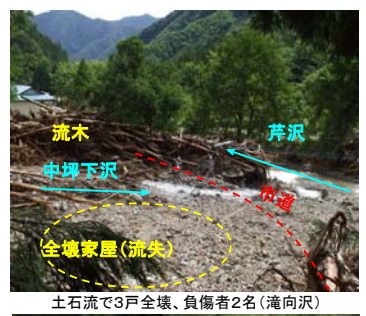
五十里湖での流木捕捉状況



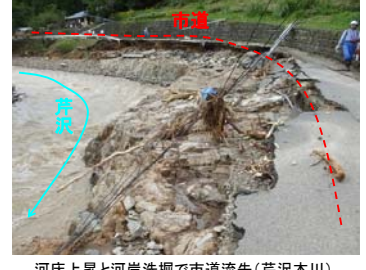
■豪雨の影響により、上流で土石流や河岸洗掘・斜面崩落などにより立木が流出
 (五十里ダムなどで約1万m³の流木を捕捉)

■ダムがなかった場合は……
 河川に流木がそのまま流れ、橋梁などに引っかかかすることで橋を流したり、河川の流れの阻害となり河川水位が堰上げられ、被害が大きくなっていたと想定されます。

■五十里ダム上流の芹沢地区では、本出水により、集落背後の8溪流から同時多発的に土石流が発生し、立木等が流出しました。



土石流で3戸全壊、負傷者2名(滝向沢)



河床上昇と河岸洗掘で市道流失(芹沢本川)

■五十里ダムで流木を捕捉したことにより、川治温泉街(男鹿川)では洪水を安全に流下させることができました。



H27.9.10川治温泉(薬師橋付近)の河川状況

■平成10年8月那須豪雨【総雨量1,254mm 6日間】
 栃木県北部で余笹川が氾濫し、国道294号が分断され、付近の商店・住宅が流失しました。
 (沼野井・稲沢地区)



出典: 那須水害復興の記録(那須町)